

過疎の町にドローンがもたらす可能性

ゆ むら ひで ゆき
湯村 秀行

山梨県南巨摩郡早川町 総務課 企画・移住担当

1 日本で最も人口の少ない町「早川町」

山梨県早川町と聞いて、いったい何人の方がこの町を知っているのだろうか。また仮に早川町という名を知っていたとして、さらにその中で何人の方が実際に足を運んだことがあるのだろうか。そんな疑問を持ちながら、早川町について紹介したい。

早川町は、山梨県の南西部に位置しており、北部は南アルプスを構成し日本第3位の標高を誇る^{あいのだけ}間ノ岳や^{のうとりだけ}農鳥岳を有する山あいの自治体である。東部は楡形山系、南部は身延山地等、四方を山々に囲まれ、南北に約38km、東西に約15.5kmと南北に長く、桜の見頃も約1ヵ月にわたって楽しむことができる。町の面積は約370km²あり、そのうちの約96%が山林である。早川町の地形は、地質学的に日本を東西に分ける大断層である糸魚川―静岡構造線の影響によるものが非常に大きい。大地の活動によって作られた谷あいを、町名の由来になっている早川が流れ、30を超える集落が点在している。

昭和31年、早川流域の六つの村が合併し早川町がスタートした。当時は高度経済成長期で、急速な経済発展とともに急増する電力使用量に対応するため、早川を利用して水力発電所やダム建設が進められた。この電源開発事業のために、多くの関係者が流入し、昭和30年の国勢調査では、合併前の6村の合計で8,700人を超え、合併後の昭和35年には10,679人を数え、ピークとなった。しか

し工事が終わると関係者は流出し、さらに追い打ちをかけるように発電所の自動化が進み、早川町は人口減少の一途をたどっていくこととなった。現在、東日本大震災での原発事故の影響を受けた市町村を除いた「町」の部門において、全国で最も人口の少ない「町」となっている。

2 南アルプスドローンスクール

早川町では、人口減少に伴い廃校となった校舎を、宿泊施設や交流促進の拠点として活用してきた。^{すずりしま}旧硯島小中学校を活用した温泉宿泊施設の「VILLA 雨畑」、旧早川南中学校を活用した「交流促進センター」、旧早川北中学校を活用した温泉宿泊施設「ヘルシー美里」である。

南アルプスドローンスクールはこの「ヘルシー美里」が活用されることとなり、令和4年4月に自治体として初となるJUIDA((一社)日本UAS産



写真1 南アルプスドローンスクールが開校された「ヘルシー美里」

業振興協議会)認定のドローンスクールとして開校した(写真1)。実技講習は、かつて校庭であったグラウンドや体育館といった広い空間を使って実施される。また、南アルプスの麓という環境の下、屋外での実習では雄大な山々を眺めながらのフライト実習を楽しむことができる。

南アルプスドローンスクールでは、2泊3日という短期集中型でJUIDAの「無人航空機操縦技能」と「無人航空機安全運行管理者」の認定を受けることができ、スクールでの講習と同時に、早川町の大自然も感じることができる。

3 負の遺産が資源に

「早川町にはDID地区がありません」

「町の中央部を流れる早川の水は、水力発電のために水量が少ないので、ドローンが墜落しても回収が比較的容易にできます」

「Japan Drone 2022」に参加した際、私たちが来場者にアピールした言葉である。

多くの来場者に対して満足のいく説明ができたとは思っていないが、早川町の特徴は伝えられたのではないかと感じている。早川町の大自然は雄大で魅力を感じてくださる方も多いのは確かだとしても、実際に居住するとなると、不便な面や自然災害と隣り合わせでもある。しかしその人口が少ないことがドローンを飛行させる制約を軽減させ、また南アルプス特有の急峻な地形が強風や天候の変化といった平地にはない様々な気象条件を生み出すことから、ドローンが直面する課題の解決に寄与できる可能性を持っていたのである。

4 早川町の冒険

早川町は、面積こそ大きいものの、非常に小さな自治体である。南アルプスドローンスクールの開校とともに、ドローンという今までにない文化

が早川町に入ってきた。「Japan Drone 2022」に参加した私たちはドローンの持つ様々な可能性や、それに携わる多くの人たちの熱い思いに直に触れることができた。「空飛ぶクルマ」に象徴されるように、ドローンはこれまでの私たちの持つ概念を大きく変えるアイテムだったのである。

“ドローンを切り口として

今までになかった新しいアイデアと価値観で地域の抱える問題解決のために冒険する”

早川町が目指す「南アルプスドローンアドベンチャーズ」構想には、そんな思いが込められている。

1. 早川町の地形的特徴を活かし、ドローンの各種実験の「場」としてドローンの発展に寄与する(写真2)。
2. 多様性を尊重し、早川町と関わる人々の増加を目指す。
3. 早川町に集まる企業・自治体・研究機関等を含めた様々なつながりを大切にする。
4. 地域の抱える課題解決に向け、様々な面からアプローチする。

この四つをスローガンに、今まで早川町が独自ではできなかったことに、様々な人々や様々な思いが加わることで、今までになかった新しい一歩を踏み出す。そんな冒険が、今ここから始まろうとしている。



写真2 早川町の空撮写真